

外国人学習者による漢字の情報処理過程について —— 漢字処理技能の測定・評価に向けて ——

加 納 千恵子

1. はじめに

漢字は、仮名文字やアルファベット文字などと比べて格段に複雑な「形態」を持っており、特に非漢字圏からの外国人学習者にとっては字形の識別だけでも慣れるのに時間がかかると言われている。また漢字は、形態情報（字形）と音声情報（読み）を持つという表音文字としての機能だけでなく、表意・表語文字と呼ばれるように、意味情報および語としての用法情報をも合わせ持っている。さらに、1つの字形の持つ音声情報が単一でなく、音・訓で2つ以上あるものが多く、また、1字で1語として文中で使われるもの、熟語の構成成分として機能するもの、その両方の機能があるものがあり、非常に処理すべき情報量の多い文字だと言える。

認知心理学の情報処理理論では、学習というのは新情報を既知の知識体系に加えて再構築するという処理過程であると考えられているが、外国人学習者は漢字の情報をどのように処理し、学習しているのだろうか。

日本人の子供が最初に漢字を学習する際には、「読み」に当たる音声情報とその意味情報との結合体である単語について、すでに日常生活の中でどのように使われるかを知っている状態から学習を始めるため、いわば既知の「読み—意味—用法」情報に「字形」情報を覚え足せばよいということになる。あるいは、日常生活のいろいろな場面で目にする漢字表記を知ってはいるが、それをどう読むのかわからないという状態から学習を始めることもある。しかし、大抵の場合、おとなが「これはこう読むんだよ。」と教えてやれば、その言葉の意味や使い方は知っていることが多い。

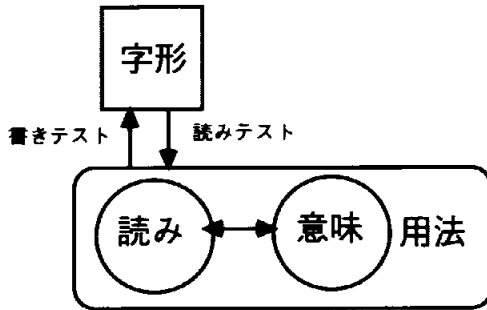


図1 従来の漢字の書きテストと読みテスト

したがって、日本人の子供を対象とした「漢字のテスト」というと、図1のように、漢字の「字形」を見てその「読み」を答える「読みテスト」や「読み」から漢字の字形を再生させる「書きテスト」などが長い間その主流となっていた。つまり、形態情報と音声情報の連合ができていどうかを測る到達度評価のみが漢字のテストだと思われていたわけであり、外国人を対象とした漢字教育においてもそのような考え方が踏襲されていたのではないと思われる。

これに対して、非漢字圏の外国人学習者が漢字を学習する場合は、彼等が母語において知っている言葉の「意味」を、漢字の「字形」や漢字語の「語形」、それに相当する日本語の「読み」と結びつけ、さらに語としての「用法」と関連づけて覚えていかなければならないことになり、その途中段階にはいくつもの情報処理のプロセスが考えられる。

Flaherty (1991) は、認知実験の結果、日本語を母語とする子供達は、字形から漢字の意味コードよりも音声コードの方に優先的にアクセスするのに対して、アルファベットを使用している外国人学習者の場合は、初級者も上級者も同様に音声コードと意味コードの両方にアクセスすると報告している。ところが、外国人学習者に漢字に関するアンケートをしてみると、音声情報より意味情報の方がずっと重要であるという回答が多く、言語運用面の現実と学習者の認識とは必ずしも一致していないことが指摘されている。

大北 (1995) は、ハワイ大学の学生に対するアンケート調査の結果から、学習者がアルファベットとは全く異なる漢字の字形を覚えるために相当の労力を使っていることを報告している。具体的に使用されている学習ストラテジーの上位10位のうちの半数は、「繰り返して書く」「簡単な漢字、かなと連想(形)」「具体的なもの、絵と連想(形)」「心的イメージを作る」「書き順に注意する」

といった字形情報の処理に関わるものであることがわかった。もちろん日本人の場合と同じように、読みと意味が結合した音声単語の形をまず学習してから、それに字形情報を覚え足すというプロセスも一般的に行われており、「音と漢字のイメージを組み合わせる」(11位)、「書きながら音を暗唱する」(16位)、「既知の日本語と連想する(音)」(18位)などは、字形情報と読み情報を関連づけようとする処理と見なすことができる。しかし、成人の学習者にとって、コミュニケーション手段としての外国語学習に費やすことのできる時間は限られており、まだ音声単語がそれほど定着しないうちに文字表記の学習にも取りかかればならない場合が多いとすると、習ったばかりの情報向上をなんとか関連づけて覚える必要があるという点で、日本語を母語とする日本人の子供の漢字学習過程とはかなり異なると考えなければなるまい。

カイザー(1997)は、従来の非漢字圏学習者を対象とした漢字学習書に見られるアプローチを次の7つに分類した。

- (1) 漢字の形の記憶を助けるため、書記素に分解する方法
- (2) 漢字の形・義を甲骨文字、あるいはそれに似せたような原始的絵画要素による形と意味の関連づけによって記憶させる方法
- (3) 漢字の形・義を漢字の構成要素の分析・再構築によって記憶させる方法
- (4) 漢字の形・音・義を音符と意符の組み合わせによって記憶させる方法
- (5) 漢字の形・音を唱え言葉によって記憶させる方法
- (6) 漢字の義を語彙として関連づけ、意味の野・場面の中で記憶させる方法
- (7) 以上(1)~(6)の部分・全体を二つ以上組み合わせた方法

これらは、漢字の持つ形態情報、音声情報、意味情報などをいかに記憶しやすく結びつけさせるかをいろいろ工夫した結果と考えられるが、やはり字形の記憶を助ける部分に注意が集中しているように見える。また、場面や文中での用法情報までを含めて関連づけ、記憶させようとしているのは6と7のみであり、他のアプローチは単漢字レベルの形・音・義の記憶にとどまっていると言える。加納(1999, 2000)で指摘したように、単漢字としての用法だけでなく、漢字が造語成分となって熟語を作る際の用法や、漢字熟語の品詞・用法なども覚えていかなければ、日本語の中で漢字を使えるようにはならない。形・音・義に加えて、語彙としての用法情報をも効果的に関連づけていくことが重要な課題であると思われる。

一方、加納(1997)で報告したように、漢字圏学習者にとっても、字形や意味には馴染みがあるものの、母語での漢字音に惑わされて日本式の「読み」が

なかなか正確に覚えられないという問題や、母語と日本語との間にある用字用語法のずれに気づかずに学習を進めた結果、日本語らしい表現や語彙の選択がなかなか定着しないという問題なども生じている。さらに中級段階では、漢字圏、非漢字圏に関わらず、全般的な漢字語彙力の拡大、すなわち漢字語彙の用法情報の補強が必要となることが指摘されている。

本稿では、外国人学習者の漢字・漢字語彙の情報処理過程にいくつかの段階を設定し、各段階の処理技能を測定評価するテスト項目の提案を行いたい。その妥当性の検証は、テストを試行した結果の分析によるものとし、後の課題とする。

2. 漢字の形・音・義・用法の情報処理技能

漢字の持つ「形態」、「読み」、「意味」、「用法」という4つの情報に注目し、それぞれに関わる情報処理の過程で必要となる技能を以下の3つの段階、4つの技能(図2の(1)~(4))に分けて考える。

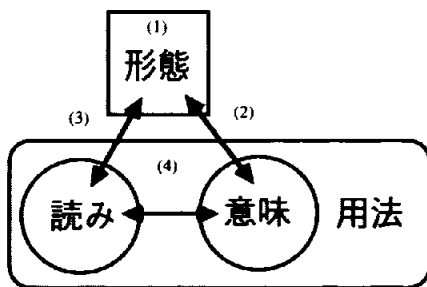


図2 漢字の持つ4つの情報と学習者の処理過程

まず第1段階として、特に非漢字圏学習者に負担が大きいとされる漢字の形態情報の処理技能を(1)とする。漢字圏学習者や日本語使用者にはそれほど問題にならないと思われる技能であるが、それでも初等教育の段階のどこかで習得されている技能であろう。

次に、第2段階として、漢字の形態情報に学習者が母語において持っている意味情報を結びつけて覚えたり、字形全体を意味を表す構成要素に分解して覚えたりする技能を(2)、漢字の形態情報に日本語の読み情報を結びつけて覚えた

り、字形を音を表す構成要素に分解して覚えたりする技能を(3)とする。読み情報と意味情報を結びつけるという処理もあるが、それは漢字学習ではなく語彙学習に当たるものとして、漢字の処理技能からは外して考える。

最後に、第3段階の総合的な処理技能として、漢字の形態情報と読み情報、意味情報の3つを結びつける技能、さらに漢字・漢言語彙の用法に関する情報をも処理する技能(4)が必要だと考えられる。

2. 1 漢字の形態情報の処理技能

トリーニ (1992) は、日本語教育においては軽視されがちであるが非漢字圏学習者にとっての重要な技能の一つとして、複雑な漢字の字形を識別したり、類似の漢字や共通の構成要素を含む漢字を識別したり字形の構造を理解したりすることの必要性を指摘し、次のA～Dのような練習を考案した。

A. 全体認識

1. 文中にある漢字を、与えられた漢字のリストの中から選ばせる練習
2. 類似の漢字群の中から与えられた漢字と同じものを選ばせる練習

B. 分解練習

1. 与えられた漢字を二つの部分に分けさせる練習
2. 与えられた漢字群の中から、ある構成要素を持つものを選ばせる練習
3. 与えられた構成要素を足してできる漢字を選ばせる練習
4. 漢字から構成要素を引いてできる漢字を書かせる練習
5. 構成要素を組み合わせてできる漢字を書かせる練習
6. リストの中の漢字を作る構成要素の組み合わせを選ばせる練習
7. 漢字辞書の「人」の部首を引いて、リストから「人」と組み合わせ可能な漢字を選ぶ練習

C. 要素認識

1. 与えられた漢字に共通の構成要素を書かせる練習
2. 与えられた漢字を作る構成要素を選ばせる練習
3. 構成要素の位置を変えて、新しい漢字を作らせる練習
4. そのグループに属さない漢字を選ばせる練習
5. 漢字を構成要素に分け、パターンの中に書かせる練習
6. 与えられた漢字に共通の音符を選ばせる練習

D. パターンとしての漢字認識

1. 与えられた漢字がどのように分解できるかパターンを選ばせる練習

2. 構成要素に分解できない漢字を選ばせる練習
3. 与えられた漢字に共通の部首を選ばせる練習
4. 与えられた漢字のグループに共通する部首を選ばせる練習
5. 与えられた漢字の部首の位置パターンを選ばせる練習

これほど多くの練習が必要とされるということは、漢字の字形の認識が非漢字圏学習者にとってかなりの負担となる情報処理である可能性を示唆している。

また、外国人学習者の漢字の形態処理技能を測る場合、上述のような漢字の字形識別、字形の構造的認識など、個別の形態処理の他に、全般的な漢字の字形処理にどれだけ慣れていても考える必要があると思われる。漢字の字形は、それを構成する点画がでたらめに配列されているわけではない。そこには何らかの形態的・概形的特徴があり、日本語母語使用者であれば、例えば常用漢字やJIS漢字にはない形であっても、「漢字らしさ」を感じる形か、そうでないかを判定できるはずである。海保・野村（1983）は、教育漢字についてその概形的特徴の主観的印象を記述する十個の7段階評定尺度を用意し、日本人大学生554名に各漢字を評定させる実験を行った結果、漢字の心理的概形特徴として、複雑性、規則性、集約性、細長性、開放性、垂直・水平性、安定性の七つが存在すると報告している。外国人学習者が見た漢字の概形的特徴が日本人と同じであるかどうかは不明だが、漢字の学習の進み具合と漢字の字形の見え方には関連があるのではないかと予想される。未習の漢字群の中に非漢字の形態を混ぜ、それが漢字ではないと分かるかどうかによって、どれほど学習者が漢字の字形を見慣れているかが測れるのではないかと考える。

2. 2 字形情報と読み情報、意味情報との関連づけ処理技能

欧米で作成された非漢字圏学習者を対象とした漢字学習書の中には、字形と意味の関連づけ、連想によるアプローチが特に多く見られる。また、Flaherty（1991）の結果からもわかるように、学習者自身は字形と意味の関連づけをかなり重要だと意識していると言われている。そのためか、加納・他（1995）で開発された漢字力テストを行ってみると、形態と意味の関連づけの処理まではできているが、日本語の語彙としての「読み」は思い出せないというレベルの学習者が少なからず存在することがわかっている。

それに対して、漢字の形態と読みを結びつけるという処理は、日本ではオーソドックスな学習法であり、特に新しいアプローチとはされていない。いわゆる従来の漢字の読みテスト、書きテストに求められる技能は、形態情報と読み

情報の関連づけの処理であるとも考えられるが、日本人の子供の場合には「字形」を「読み」と結びつけることが自動的にその言葉の意味とも結びつけることになるため、(4)の総合的処理技能として扱われるべきであると思われる。外国人学習者が漢字の「形態」と「読み」のみを結びつける処理を行うと、「新聞をよむ」を「四む」と書いたり、「日本語をはなす」を「花す」と書いたりするようなことが出てくる。アルファベットなどの表音文字に慣れた学習者にとっては、同じ音を表すのに別の字を使うということがなかなか理解できないためである。

漢字の表音性を利用したアプローチとしては、Pye (1971) があり、常用漢字を音読み別に分類し、同音で共通の音符を持つ形声文字を集めて整理している。ただし、この学習方法は、中級レベルになって学習漢字が多くなると受け入れられにくいようで、先述の漢字力テストでも、形声文字の音符の知識から漢字の音読みを類推させるテスト項目は、初級500字修了レベルの学習者でクリアできる者は少ない。

2. 3 総合的な情報処理の技能

以上のように見てくると、外国人学習者にとって、2.1や2.2の段階の処理にとどまっていたは、漢字習得が十分であるとは言えないことがわかる。漢字の形・音・義が総合的に結びつけられて処理されているかどうかを判定するテスト項目が必要である。日本人の子供向けには、文の読み書きテストでもそれが実現できると思われるが、外国人学習者の場合には、総合的な処理ができていない場合に、どの部分の情報処理に問題があるのかを識別できるような細分化されたテストであることが求められるのではないだろうか。

加納(2000)では、初級後半から中級・上級の学習者の漢字語彙力拡張のために有効と思われる漢字の意味的、用法的な知識として、漢字語彙の品詞性、助詞等との文法的共起性、他の語との意味的共起性、類義語・対義語などの関連語のネットワークなどを取り上げた。そのような知識および運用力を問うテスト項目も重要であろう。

実は、日本人の子供の漢字学習においても、中等教育レベルになると、漢字表記とともに概念そのものが新しい語彙を覚えなければならない段階が来ると思われる。そこにおいては、やはり漢字語彙の知識や運用力を問うことが外国人学習者の場合と程度の差こそあれ必要になってくるのではないだろうか。

3. 各情報処理技能を測るためのテスト項目

漢字の各情報を処理するための(1)~(4)の技能と、それらを評価・測定するためのテスト項目を以下のように整理した。

- | | |
|-----------------------|---|
| (1) 形態情報処理の技能 | (1-1) 字形の識別
(1-2) 字形構造パターンの識別
(1-3) 構成要素の識別
(1-4) 漢字・非漢字の識別 |
| (2) 形態-意味情報処理の技能 | (2-1) 字形/語形と意味の連合
(2-2) 構成要素と意味の連合
(2-3) 対義字/対義語の識別
(2-4) 同類字/同類語の識別 |
| (3) 形態-読み情報処理の技能 | (3-1) 字形/語形と読みの連合
(3-2) 構成要素による音読みの類推
(3-3) 訓読み/音読みの識別
(3-4) 同音字/同音語の識別
(3-5) 類音字/類音語の識別 |
| (4) 形-音-義-用法の総合的処理の技能 | (4-1) 文脈による読み
(4-2) 文脈による字形の選択
(4-3) 文脈による類義語の選択
(4-4) 形・音・義と送り仮名の用法
(4-5) 形・音・義と品詞の識別
(4-6) 熟語の語構成の認識 |
| (5) その他 | |

初級の漢字テストや漢字教材²⁾を参考にしながら、上記の各情報処理の技能を検討し、テスト項目別に問題例を挙げる。

3. 1 形態情報処理の技能

(1-1) 字形の識別

1. 類形字の中から同一のものを選ぶ。

Ex. 話：読 話 設 話 詞 語 話 詔 話

2. 字形の異同を判断する。

Ex. 電話・話す：○ 英語・読む：×

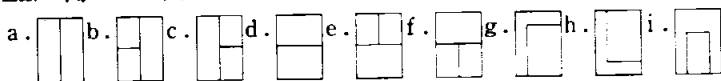
3. 漢字の画数を数える。

Ex. どちらの画数が多いか：村 林

(1-2) 字形構造パターンの識別

4. 字形構造のパターンを選ぶ。

Ex. 聞： 買： 道： 持： 病： 染： 親：



5. 同じ構造パターンの漢字を選ぶ。

Ex. 店： 国 何 点 屋 風 置

(1-3) 構成要素の識別

6. 漢字の字形から共通の部分を探す。

Ex. ?： 地 去 庄 園 社

7. 部首を持つ漢字を探す。

Ex. 日： 吸 町 時 着 買

8. 形態的に同じグループに属する漢字を | から選ぶ。

Ex. 男 () 勉 加 | 分 動 切 反 |

9. 形態的に同じグループに属さない漢字を選ぶ。

Ex. 校 森 困 付 休

10. 部分を組み合わせて漢字を作る。

Ex. 安 + 木 = 女 + 子 =

11. 全体から部分を引いて漢字を作る。

Ex. 空 - 穴 = 語 - 吾 =

12. 漢字の部分を選択する。

Ex. () + 青 = はれ 雨 + () = ゆき
 | 日 日 口 | | コ ロ ヨ |

(1-4) 漢字・非漢字の識別

13. 漢字でないものを選ぶ。

Ex. 区 凶 刃 凶

3. 2 形態情報と意味情報処理の技能

(2-1) 字形・語形と意味の連合

14. 漢字を見て、その意味（あるいは絵）を選ぶ。

Ex. 山 : river mountain tree knife high

15. 漢字を見て、同意味の漢字を選ぶ。

Ex. 開 == 終 始 出 入

16. 与えられた意味の漢字を書く。

Ex. expensive → () い

たか

birth date → () 年 () ()

せい ねん がっ び

(2-2) 構成要素と意味の連合

17. 漢字を見て意味から部首を識別する。

Ex. () : 春 暖 暑

18. 同じ部首の漢字を書く。

Ex. 言 : () () ()

(2-3) 対義字・対義語の識別

19. 反対の意味の漢字を { } から選ぶ。

Ex. 上 ↔ { } 中 下 左 半 { }

20. 反対の意味の漢字語を { } から選ぶ。

Ex. 勝利 ↔ { } 失敗 勝負 敗北 { }

(2-4) 同類字・同類語の識別

21. 意味的に同じグループに属する漢字を { } から選ぶ。

Ex. 白 () 青 赤 { } 暗 黒 東 明 { }

22. 意味的に同じグループに属する漢字熟語を { } から選ぶ。

Ex. 病院 () 会社 食堂 { } 住所 番組 工場 先生 { }

23. 意味的に同じグループに属さない漢字を選ぶ。

Ex. 夏 冬 昼 秋 春

24. 意味的に同じグループに属さない漢字熟語を選ぶ。

Ex. 医者 歌手 技師 科学

古代 時代 地代 現代

3. 3 形態情報と読み情報処理の技能

(3-1) 字形／語形と読みの連合

25. 漢字の読みを選択する。

Ex. 来てください。 | きって きいて くるて きて |

26. 漢字熟語の読みを選択する。

Ex. 空港 | くこう くこ くうくこう |

27. 漢字の読みをひらがなで表記する。

Ex. 歌がじょうずだ。

28. 漢字熟語の読みをひらがなで表記する。

Ex. 家族にあう。

(3-2) 構成要素からの音読みの類推

29. 形声文字の音符を探す。

Ex. 晴 精 静 → 青:セイ
軽 経 径 → ()

30. 形声文字の音符を手がかりに読む。

Ex. 多くの人が犠牲になった。

31. 漢字の部分を書き足す。

Ex. 学木 でべんきょうする。

(3-3) 訓読み／音読みの識別

32. 音読みか訓読みかを選択する。

Ex. 手紙をかく | ショ・カ
図書館へ行く | ショ・カ

33. 2つの音読みのうち適当な方を選択する。

Ex. 下流 () 下車 () | ゲ・カ
大学 () 大切 () | ダイ・タイ

(3-4) 同音字・同音語の識別

34. 同じ音読みのグループに属する漢字を | | から選ぶ。

Ex. 校 () 工 公 | 号 高 合 強 |

35. 他と違う音読みの漢字を選ぶ。

Ex. 開 回 外 会 階

36. 同じ読みの熟語を選択する。

Ex. 広義 | 合議 豪気 抗議 工事 |

(3-5) 類音字／類音語の識別

37. 熟語の読みの中から正しいものを選択する。

Ex. 集合時間 | しゅこう しゅうこう しゅうごう しゅごう |

3. 4 形一音一義一用法の総合的処理の技能

(4-1) 文脈による漢字語の読み

38. 文中の漢字語の読みを選択する。

Ex. 国に帰って結婚するつもりだ。

| けってい けっこん けっせき けっこう |

39. 文中の漢字語の読みをひらがなで表記する。

Ex. 来月からバスの料金が上がる。

(4-2) 文脈による字形の選択

40. 似ている字形の中から正しい漢字を選択する。

Ex. 田中さんは |字 学 宇| 生です。

あそこを右に |由 曲 典| がってください。

41. 同音の漢字の中から正しい漢字を選択する。

Ex. そうは |花 鼻| がながい。

42. 文中のことばの漢字表記を選択する。

例 せんしゅう東京へ行った。| 選週 先週 生週 千週 |

43. 同音語の中から正しい漢字表記を選択する。

例 きょうはてんきがよくて、あたたかい。

| 転機 転記 天気 天期 |

44. 正しい漢字表記を書く。

例 あしたはあめがふるだろう。

(4-3) 文脈による類義語の選択

45. 意味的共起関係から漢字熟語を選択する。

例 この図書館の _____ 時間は午前9時だ。

| 開始 開場 開館 公開 |

46. 文法的共起関係から漢字熟語を選択する。

例 テレビゲームに _____ している子供が多い。

| 夢中 熱中 熱意 熱心 |

47. 分野的共起関係から漢字熟語を選択する。

例 開発途上国に経済的な_____を行う。

| 救助 救援 援助 応援 |

(4-4) 形・音・義と送り仮名の用法

48. 漢字に送り仮名をつける。

Ex. 新_____ 古_____ 明_____
買_____ 始_____ 起_____

49. 送り仮名から漢字を選ぶ。

Ex. | 大 忙 多 | きい | 小 難 強 | い
きくない | くない
| 働 来 通 | く | 帰 起 買 | る
かない | らない

(4-5) 形・音・義と品詞の識別

50. 同じ用法(品詞)の漢字を | | から選ぶ。

Ex. 終 () 書 食 | 使 短 物 館 |

51. 同じ用法のグループに属さない漢字を選ぶ。

Ex. 重 長 古 立 高

52. 漢字熟語に「する」をつけて漢語動詞として使われるかを問う。

Ex. 乗車 (○) 勉強 (○) 問題 (×) 元気 (×)

53. 漢字熟語に「な」をつけて漢語形容詞として使われるかを問う。

Ex. 有名 (○) 病気 (×) 便利 (○) 電話 (×)

54. 漢字熟語の用法を総合的に判断する。

Ex. 親切な (○) 旅行な () 失礼な ()
する (×) する () する ()
だ (○) だ () だ ()

55. 同じ用法の漢字熟語を | | から選ぶ。

Ex. 練習 () 質問 案内 | 問題 留学 住所 |

56. 同じ用法ではない漢字熟語を選ぶ。

Ex. 物理 元気 生物 政治 歴史

(4-6) 熟語の語構成の認識

57. 漢字熟語を意味的な最小単位に分ける。

Ex. 非人間的 → 非 [人間 的]
図書館員 → [図書 館] 員

58. 否定の意味の接頭辞を選ぶ。

Ex. 親切 ←→ 不 無 非 未 親切

59. 接頭辞・接尾辞で語を作る。

Ex. 体育 () : 所 地 園 館

看護 () : 家 手 婦 屋

60. 漢字の意味から熟語全体の意味を類推する。

Ex. 着る (to wear) + 物 (things) = 着物 ()

61. 漢字熟語の意味構成を理解する。

Ex. 構成タイプ1 A+B 男女: 男+女

行動: 行+動

構成タイプ2 A→B 新車: 新しい車

教室: 教える室 (=へや)

構成タイプ3 B→A 帰国: 国に帰る

閉店: 店を閉める

飲酒 = タイプ? 黒板 = タイプ?

62. 漢字熟語の意味を理解して、ひらがなを入れる。

Ex. 有名大学 = 有名 (な) 大学

歴史研究 = 歴史 () 研究 () こと

米国留学 = 米国 () 留学 () こと

(5) その他

63. 漢字熟語の部分を選択する。

例 友だちに電 | 車 | 語 | 話 | 気 | をかける。

64. 選んだ漢字を組み合わせて熟語を作る。

例 |公 | 工 | 食 | 会 | 学 | 病 | + |場 | 院 | 社 | 校 | 園 | 堂 | →

65. 組み合わせて熟語を作る漢字を探す。

Ex. (人) — 院 国 — () () — 料
 \ / / \ / \
 学 市 名
 \ / / \
 場 農 関心

66. 漢字を使って、熟語を作る。

Ex. 新 → 新聞

書 → 読書

67. 漢字を使って、文を作る。

Ex. 朝 茶 飲 → 朝, お茶を飲みます。
道 友 会 →

68. 漢字熟語を使って、文を作る。

Ex. 予約 北海道 来月 旅館 旅行 →

69. 共起関係から漢字の用法を選ぶ。

Ex. テレビを () 新聞を ()
| 聞 見 話 書 読 飲 食 出 入 |

70. 文中で漢字で表記すべき部分を判断し、漢字にする。

Ex. ふるいえいがをみたことがある。
→ 古い映画を見たことがある。

4. まとめと今後の課題

3種類のテスト・教材を参考に、以上のような70タイプのテスト項目を抽出した。非漢字圏の初級者に対するテストとしては、(1)(2)にあげた項目が有効ではないかと予想される。漢字圏学習者および中級以上の学習者には、(3)(4)の処理技能をさらに細分化して検討する必要があるのではないかと考えている。今後、国内あるいは海外の日本語教育機関にいる外国人学習者を対象として、このような漢字の情報処理技能を測定・評価するテストを試行する予定である。それによって、外国人学習者の漢字の情報処理の過程および学習過程に関する考察をさらに整理・統合していく必要があると思われる。

今後の課題としては、試行テストの結果を分析することによって、本稿で検討した外国人学習者の漢字・漢字語彙の情報処理過程を詳しく検証していくこと、さらには、アンケートや面談などによる学習者の意識調査等を実施し、漢字の学習意識と情報処理過程の関係をより明確化していくことを目指したい。

注(1)(2)項目のテスト問題のうち、2項目が字形と意味を結びつける問題であり、漢字を見て、反対の意味の漢字を選ぶ問題(ex. 高⇔:底 短 下 低)と、漢字熟語を意味の単位に切る問題(ex. 無公害車:無 公害 車 無公 害車 無 公 害車 無公 害 車)がある。

- (2)日本語能力試験の文字問題3・4級, [Basic Kanji Book] Vol.1, Vol.2などの外国人学習者向け初級教材, 日本人の子供向け教材「漢字がたのしくなる本」Vol.1~Vol.6などの問題を参考にして, 項目を抽出した。

参考文献

- 大北葉子 (1995) 「漢字学習ストラテジーと学生の漢字学習に対する信念」『世界の日本語教育』第5号, 国際交流基金日本語国際センター, pp. 105-124.
- カイザー シュテファン (1997) 「漢字学習書各種アプローチの検討(1)―表音的アプローチについて―」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』12号, pp. 31-41.
- 海保博之・野村幸正 (1983) 『漢字情報処理の心理学』教育出版
- 加納千恵子・他 (1995) 『パーソナルコンピュータを利用した外国人学習者の漢字力テスト (CAT) の開発』文部省科学研究費補助金一般研究(B) (課題番号04455003) 研究成果報告書
- 加納千恵子 (1997) 「非漢字圏学習者の漢字力と習得過程」『日本語教育論文集―小出詞子先生退職記念―』凡人社, pp. 257-268.
- (1999) 「初級漢字の品詞性と造語力」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』14号, pp. 45-80.
- (2000) 「中上級学習者に対する漢字語彙教育の方法」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』15号, pp. 35-46.
- トリニー アルド (1992) 「非漢字系学習者のための入門期における漢字学習指導の一考察」『世界の日本語教育』第2号, 国際交流基金日本語国際センター, pp. 65-76.
- Mary Flaherty (1991) "Do Second-Language Learners of Japanese Process Kanji in the Same Way as Japanese Children?" 『世界の日本語教育』第1号, 国際交流基金日本語国際センター, pp. 183-200.
- Pye M. (1971) *The Study of Kanji: a handbook of Japanese characters*. Hokuseido Press.

本研究は, 平成12年度日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究(B)(2)「非漢字圏外国人学習者の漢字語彙力測定のための標準テストの開発」(課題番号12480059)の助成を受けている。